

「スマートフォン等を通じたSNSの利用に関するアンケート」の回答結果について

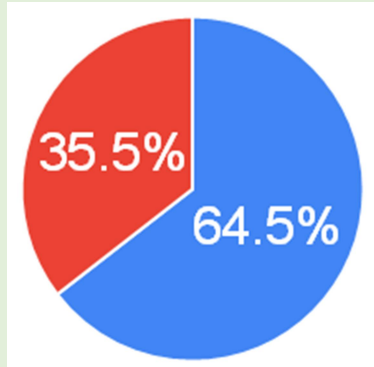
廿日市市教育委員会
廿日市市PTA連合会

令和8年4月に、市内小・中学校（小学校第1学年～中学校第3学年）の保護者を対象としてアンケートを実施し、計2,610件の回答をいただきました。

本資料では、アンケート結果の中から主な項目を掲載するとともに、その結果から見てきた傾向や今後考えられる取組について整理しています。

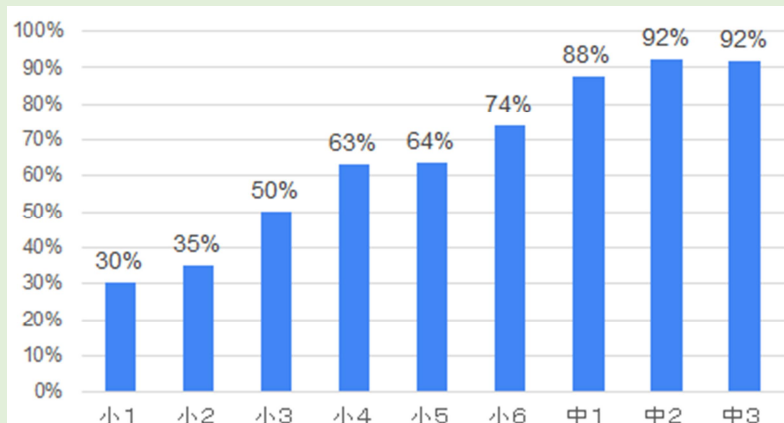
1. SNSの利用が可能な機器の所持または共用での使用率

SNS利用可能機器の所持・共用使用率（全体）



- 所持または、共用で使用している。
- 所持、共用の使用はしていない。

SNS利用可能機器の所持・共用率（学年別）



所持率は学年が上がるごとに増加し、中学生は約9割が所持または共用で使用している。

2. 機器の所持状況によるメリット、デメリット

持たせているメリット

連絡がとりやすい	72.5%
子どもの居場所が分かる	45.5%
学習に活用できる	27.8%

持たせているデメリット

ゲーム・SNS依存の心配	63.2%
利用時間が長い	61.4%
視力・健康への影響	56.4%

持たせていないメリット

トラブルの心配がない	85.2%
利用時間を気にしなくていい	45.5%
家族との会話が保てる	27.4%

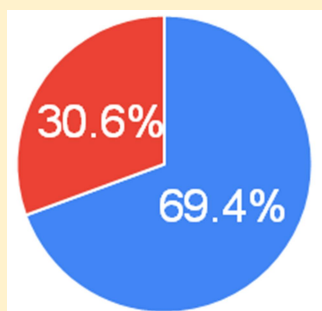
持たせていないデメリット

連絡が取りづらい	42.7%
防犯面の不安	31.3%
子どもが不満を持っている	10.5%

機器の所持・所持にかかわらず、多くの家庭が、機器を持たせるメリットとして「子どもの安全・安心の確保」を挙げる一方、デメリットとして「ゲーム・SNS依存」や「長時間利用」を懸念している。

3. 機器の使用ルールの設定状況と内容

家庭における機器の使用ルール設定状況



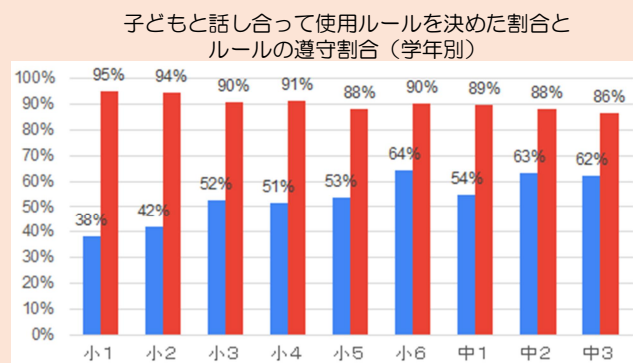
- 使用ルールを決めている。
- 使用ルールを決めていない。

家庭における機器の使用ルールの設定内容

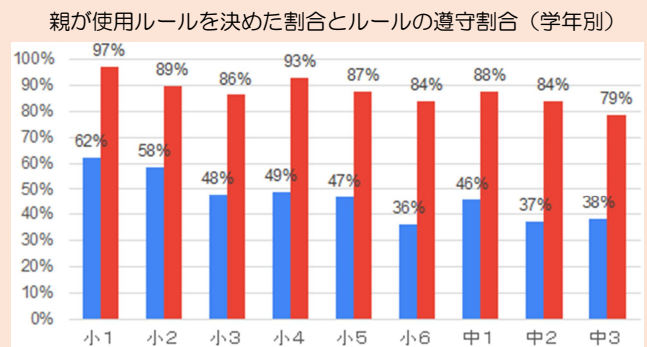
利用時間の制限	84.0%
アプリのダウンロードは許可制	61.9%
SNSの利用制限	52.4%
フィルタリング設定	50.0%
利用場所の制限	43.1%
夜間は親が預かる	39.8%

デメリットとして挙げた「長時間利用」や「ゲーム・SNS依存」に対する使用ルールの設定が多い傾向がみられる。

4. 機器の使用ルールの決定方法と遵守状況



- 子どもと話し合って使用ルールを決めた。
- 子どもと話し合って決めた使用ルールが守られている。



- 親が使用ルールを決めた。
- 親が決めた使用ルールが守られている。

- 学年が上がるにつれ、子どもと話し合って使用ルールを決めている家庭の割合が高くなる傾向がみられる。
- 子どもと話し合ってルールを決めている家庭では、ルールが守られている割合がわずかながら高い傾向がみられる。

5. 機器の使用ルールの決定方法とルールの項目数

	1項目	2項目	3項目	4項目	5項目	6項目～
子どもと話し合って決めた	133人	176人	173人	178人	153人	168人
親が決めた	167人	156人	168人	142人	96人	87人

子どもと話し合って機器の使用ルールを決めた家庭では、保護者が決めた家庭と比べて、設定しているルールの項目数が多い傾向がみられる。

※ 使用ルールは基本的に「3. 機器の使用ルールの設定状況と内容」の表内の6項目+α

6. 学校や行政に期待する支援

子ども向け情報モラル教育	70.6%
情報提供	44.4%
相談体制の充実	21.9%
保護者向け講座	13.1%



まとめ

- SNS利用が可能な機器の所持・共用使用率は高く、中学生で約9割に達している。
- SNS利用が可能な機器の所持・共用使用している家庭の内、約3割は使用ルールを決めていない。
- 子どもと話し合って使用ルールを決めている家庭ほど、ルールの項目数が充実している傾向がみられる。
- 学校や行政には、子ども向け情報モラル教育や情報提供が期待されている。

今後の取組

- 子どもの発達段階に応じた情報モラル教育を推進する。
- 家庭で子どもと話し合いながら使用ルールを決め、見直す取組を促進する。
- 保護者への情報提供を充実し、学校・家庭・行政が連携した啓発を推進する。